

第355回

日本泌尿器科学会新潟地方会

《プログラム》

日時：平成22年9月11日（土）午後4時30分

会場：ホテルニューオータニ長岡2階『柏の間』

長岡市台町2丁目8-35 0258-37-1111

次回 第356回新潟地方会予告

日時：平成22年12月11日（土）午後3時

会場：未定

演題申込期限：平成22年11月12日（金）

※ すべてPCのみの発表とさせていただきます。

※ 口演時間は、7分。討論3分

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい。

951-8510 新潟市中央区旭町通1-757

新潟大学医学部泌尿器科学教室内

日本泌尿器科学会新潟地方会

TEL：025（227）2289／FAX：025（227）0784

会長 高橋 公太

1. 異所性尿管開口を伴った低形成腎に対する後腹膜鏡下腎摘出術

新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野

白野侑子、田所 央、笠原 隆、新井 啓、小原健司、西山 勉、高橋公太

今回我々は異所性尿管開口を伴った低形成腎に対し、後腹膜鏡下腎摘出術を施行したので報告する。【症例】5歳女児。尿路感染症を契機に左低形成腎を指摘されていた。尿失禁が持続するためMRIを行ったところ、左尿管が膀胱の後方を索状物となって走行しており、異所性尿管開口が疑われた。【術中所見】膀胱内に左尿管口はみられず、臍内の異所性尿管口と思われる開口部を認めた。異所性開口部からステントを挿入し造影したところ、尿管腎盂の描出を認めた。後腹膜鏡下左腎摘出術を施行。【経過】術後尿失禁は消失した。

2. 骨盤内神経鞘腫の一例

新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野

鳥羽智貴、滝沢逸大、笠原 隆、原 昇、谷川俊貴、西山 勉、高橋公太

症例は61歳男性。2010年1月、健診でPSA9.69ng/ml高値を指摘され、2月16日、当科初診。2月19日、MRIにて $\phi 8.0 \times 7.2 \times 7.0$ cmの境界明瞭、円形、多房性の骨盤内腫瘤を認めた。6月28日、下腹部正中切開による骨盤内腫瘍摘除術施行。腫瘍は軟性で内部は隔壁を有しており漿液を含んでいた。病理結果は神経鞘腫で術後経過は良好であった。文献的考察を行う予定である。

3. 長期GC療法が奏効している腎盂癌の1例

立川総合病院¹⁾、新潟大学医歯学総合病院²⁾、県立新発田病院³⁾

武田啓介¹⁾、諏訪通博¹⁾、田所 央²⁾、信下智広³⁾、上原 徹¹⁾

症例は65歳女性。腎盂癌pT4と診断された。術後多発転移を認めGC療法を開始した。6コース終了後もPRにて更に6コースを追加した。3ヵ月後CTにて増悪を認めGC療法を再開し、現在も加療中である。

4. 当院における前立腺全摘術110例の臨床病理学的検討

新潟労災病院 泌尿器科¹⁾、同 病理部²⁾

安藤 嵩¹⁾、小池 宏¹⁾、川口 誠²⁾

当院では2003年6月から2010年7月までに110例の前立腺全摘術を施行した。その110例について臨床病理学的に検討したので若干の考察を交えて報告する。

5. 膀胱タンポナーデ時の血腫除去の工夫

佐渡総合病院泌尿器科 村山慎一郎

血尿を伴う泌尿器科疾患で膀胱タンポナーデとなることが時々見受けられる。その際には、膀胱尿道カテーテルを挿入し、膀胱洗浄を行うことになるが、血腫が内腔を通過できずに閉塞することがあり、たとえ径の太いカテーテルを使ったとしても有効に洗浄できないことも多い。何度か行い有効と思われる方法があったのでビデオ供覧で紹介させていただく。

6. 当科での進行性腎細胞癌に対する治療と実際

新潟県立がんセンター新潟病院・泌尿器科

若月俊二、斉藤俊弘、小林和博、北村康男

近年、分子標的薬によって進行性・再発性腎細胞癌に対する治療戦略が変わりつつある。当科では2010年4月までにソラフェニブ6例（平均64.2歳）、スニチニブ11例（平均60.7歳）が使われてきた。ソラフェニブ症例の内訳は男4例、女2例、1例はSDを保って、2例がスニチニブにコンバートしている。スニチニブ症例は男8例、女3例で前治療として、14例中11例にインターフェロンが投与されていた。近接効果としてソラフェニブ症例はSD1例、PD2例であった。一方スニチニブ症例はPR3例、SD6例、PD1例であったが、PR1例は部分的にPDもあり、別のPRは画像上液状化が見られるも、3ヶ月後に死亡した。最近スニチニブ症例でもPDとなり、二次治療（三次？）への移行を検討中である。以上、実際の症例を交えながら、当科における進行性腎細胞癌の治療指針を報告する予定である。

7. 前立腺生検前のグリセリン浣腸により直腸損傷と血尿を呈した1例

新潟市民病院

今井智之、川上芳明、筒井寿基

前立腺生検前処置としてグリセリン浣腸を行ったところ、顔色不良と発汗あり。肛門鏡とCTにて直腸裂傷と診断された症例を経験した。直後に肛門周囲の皮下出血と血尿が出現したが、保存的治療で軽快し退院した。日常的に行われているグリセリン浣腸であるが、思わぬ合併症を生じる可能性に注意が必要であり、無駄な施行は減らすべきと考えられる。アンケートに協力いただき、県内における術前処置での浣腸使用状況をあわせて報告する予定である。

[休 憩 17:40～18:00]

サテライトセミナー

日 時：平成22年9月11日（土）

18時00分～19時10分

会 場：ホテルニューオータニ長岡 2階『柏の間』

18：00～18：10

製品紹介

『プロスタールの最近の話題』

あすか製薬㈱ 甲信越支店 学術情報マネージャー 由井 覚

18：10～19：10

座長 新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野

教授 高橋 公太 先生

「腎臓病学におけるプロテオミクス」

講師 新潟大学腎研究施設 構造病理学分野

教授 山本 格 先生

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会

あすか製薬株式会社

サテライトセミナー終了後、2階「雪椿の間」にて懇親会となります。